

キルギスと周りの国々



旧ソ連時代の関係が崩壊
水資源乱用で地形も変化

最近、キルギスという国で反政府デモによる政権交代が起こって、大統領が辞任したのを知っていますか？ キルギスはシルダリア川という大きな川の源をなす高い山に囲まれた、中央アジアの小さな国です。今日はそのシルダリア川の水と、キルギスと周りの国に関する話です。

シルダリア川などから水を引いて農地にすることができると考えました。川も凍りついてしまいました。凍った川に大量に水が流れて川から水があふれ、大規模な洪水が起こるようになりました。

ンという国になります。さらに下るとカザフスタンという国に入り、最後はアラル海という湖にたどり着きます。このように国をまたがって流れる川を国際河川といいます。国際河川で水を使うときには、川の周りの国々が協力しないと水をめぐって争いになります。特に中央アジアには砂漠が広がっていて水資源が貴重なので、水問題は深刻です。

1991年までは、キルギスもウズベキスタンもカザフスタンもロシアと同じ「ソビエト社会主義共和国連邦」(ソ連)という一つの国でした。ソ連はその地方の特徴を生かして他の地方の弱点を補い合うという計画経済という仕組みを用いていました。キルギスの特徴は高い山がたくさんあり、雪がたくさん降って水資源が豊富なことです。ウズベキスタンには広大な土地が広がっている

カザフスタンは石炭や原油などの資源が豊富です。そこでソ連政府はキルギスに巨大な(日本で一番大きいダムより30倍も大きい)ダムを造り、冬に雪として降る水資源を蓄えて、夏の間放流して、ウズベキスタンで綿花栽培を始めました。その代わりとして、資源が豊富なカザフスタンからは冬はとも寒いキルギスに石炭や原油を運びました。

1991年にソ連が崩壊して、キルギスもウズベキスタンもカザフスタンも独立国になりました。キルギスはカザフスタンに対して石炭などを安くしてほしいと要求しましたが、カザフスタンは石炭などをお手持ちの国に売ればもうかるので、キルギスに安く売ることはありませんでした。そこで、キルギスは自国にあるほとんどの唯一の天然資源である「水」を冬に放流して、水力発電に

よって冬の寒さをしのぐことにしました。しかし、ウズベキスタンもカザフスタンも砂漠の国なので冬にはマイナス20度にもなると、川も凍りついてしまいました。凍った川に大量に水が流れて川から水があふれ、大規模な洪水が起こるようになりました。

もともと、ウズベキスタンで綿花を作るためにシルダリア川の水を使ったので、シルダリア川の下流にあるアラル海の大きさはどんどん減っていったのですが、冬に大規模な洪水が起こるようになってその減り方がさらに早くなってしまうました。アラル海の大

きさは1960年には九州と四国の面積を足したくらいあったのですが、すでに四国の面積分くらいがなくなっています。一方であふれた水は砂漠の中に新しい湖を作っています。このように人間の力は大きいので、その使い方がよくないと自然のバランスが崩れて取り返しのつかないことになってしまいます。

(神戸大教授、山梨大客員教授 大石哲)